

アドバンテスト(6857)



《企業紹介》

同社は、半導体の製造プロセスの前工程終了時点で、シリコンウェーハ上に形成された回路の良不良を判定する検査装置や、後工程で組み立てられた半導体製品の品質検査を実施する装置を手掛ける企業である。1954年に電圧電流計や周波数カウンタといった単機能の電子計測器のメーカーとして創業し、1960年代に半導体産業の発展を一早く予測して技術を活かせるテストシステムに社運をかけて参入し、1972年に国産初の半導体試験装置を開発した。その後は日本の半導体産業の発展と共に業容が拡大し、1985年には世界最大の半導体検査装置メーカーに躍進した。

「顧客が必要とするソリューションを、顧客が必要とするときに、最高の品質と費用対効果とともに提供する」というポリシーのもと、市場のニーズの変化に的確に対応してきた結果、1990年代以降の日本の半導体産業の凋落にもかかわらず、同社の2025年3月期業績（会社計画）は売上高、営業利益、当期利益共に過去最高を記録する見通しである。地域別売上高構成比(2024年3月期)は日本4.1%、韓国19.1%、台湾22.2%、中国32.2%、米国7.7%、欧州3.6%、その他10.9%となっている。

《2021年3月期から2025年3月期の業績推移》

同社の半導体検査装置の売上高は半導体設備投資の動向に大きな影響を受ける。コロナ禍からの回復や金融緩和によって世界経済が好調に推移した結果、スマートフォン向け半導体需要に支えられ、半導体設備投資が拡大し、同社の2021年3月期から2023年3月期までの業績は順調に推移している。2024年3月期は一転して減収減益となっているが、世界の金融政策が引き締めに転じた影響を受け、スマートフォン向け半導体需要が停滞し

図表1 アドバンテストの業績推移

(単位 十億円)

	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 実績	2024年3月期		2025年3月期	
				実績	前期比(%)	会社計画	前期比(%)
売上高	312.8	416.9	560.2	486.5	-13.2	740.0	52.1
半導体・部品テストシステム事業	207.2	288.9	404.3	331.5	-18.0	563.0	69.8
メカトロニクス関連事業	40.0	42.3	59.9	52.7	-12.0	68.0	29.0
サービス他	66.8	85.8	96.1	102.3	6.4	109.0	6.6
消去または全社	-1.2	-0.1	-0.0	-	-	-	-
営業利益	70.7	114.7	167.7	81.6	-51.3	226.0	176.9
半導体・部品テストシステム事業	61.6	105.7	163.2	91.9	-43.7	-	-
メカトロニクス関連事業	5.0	6.1	15.0	9.2	-38.7	-	-
サービス他	10.4	17.8	7.6	-2.8	赤字化	-	-
消去または全社	-4.6	-13.1	-16.6	-14.9	-10.3	-	-
(調整)株式報酬費用	-1.6	-1.8	-1.5	-1.8	-	-	-
当期利益	69.8	87.3	130.4	62.3	-52.2	167.5	168.9

注 2025年3月期会社計画は2025年2月に公表された最新の数値を用いている。なお、セグメント別営業利益計画は公表されていない
出所 会社資料をもとに当社作成

たことが影響したとみられる。しかし、2025年3月期はスマートフォン向け半導体需要の低迷が続いているうえ、自動車向け半導体需要も減少しているにもかかわらず、同社の売上高は前期比52.1%増の7,400億円、営業利益は同176.9%増の2,260億円と、過去最高水準に達する見通しとなっている。この背景にはデータセンターへの大規模な投資が引き起こしている最先端のAI(人口知能)関連半導体需要の急速な拡大があるようだ。新しい半導体の主要ユーザーの登場によって半導体設備投資の新しい牽引役が登場したことが同社の業績成長トレンドに大きな影響を与えていると考えることができるよう。同社は2025年1-12月についても、スマートフォン向け等の低迷が続くが、AI関連半導体の複雑化と生産数量の拡大によって同社製品に対する需要が引き続き堅調に推移するとみている。

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20250217

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断に行ってください。

アドバンテスト(6857)



《中期経営計画の進捗状況》

同社は 2025 年 3 月期を初年度とする 3 ヶ年の中期経営計画を実施している。半導体設備投資動向は半導体製品の需給関係により大きく変動するため、同社は数値目標を 2025 年 3 月期から 2027 年 3 月期の平均値で示している。具体的には、売上高の平均値を 5,600～7,000 億円（前中期経営計画 2022 年 3 月期から 2024 年 3 月期実績の平均値は 4,879 億円）、営業利益率の平均値を 22～28%（同 24.7%）、当期利益の平均値を 930～1,470 億円（同 933 億円）をとっている。既に 2025 年 3 月期会社計画はその水準を超える見通しだが、今後 2～3 年の半導体設備投資の減速による一時的な業績悪化リスクを考慮しているようである。

同社の中期経営計画の最優先事項は半導体試験装置の競争力を一段と引き上げることとみられる。過去の中期経営計画でも半導体試験装置に限られていた事業領域を広げるために経営資源を投入してきたが、その結果として、事業領域は着実に拡大している。2024 年 3 月期からの中期経営計画では、効率のよい検査工程を提案し、その考えを装置に搭載することによって顧客満足度を上げながら中長期的な成長を確実にすることを目指しているとみられる。半導体の高度化や複雑化が進むもとで、検査の手間は大幅に増加すると考えられるが、広げてきた事業領域をベースにオペレーション全体からの効率化の提案を考えているようだ。単なる出荷台数増による業績拡大は目指さない方針とみられる。

AI の進歩によって半導体市場は長期的に高い成長が見込まれている。それに伴って半導体設備投資も大きな波はあるだろうが、平均すれば半導体市場と同等以上の成長が期待できる。同社は世界の代表的な半導体メーカーと取引があり、顧客の最先端のニーズも的確に把握しているとみられ、半導体試験装置市場では 54%程度（2021～2023 年の平均）のシェアを握っている。中期経営計画において、同社はこのシェアを 58%超に引き上げ、半導体製造増値市場の成長を上回る成長を目指している。なお、リスク要因として、AI 半導体の主戦場であるロジック半導体の試験装置分野での競争が厳しいこと、中国メーカーの台頭などが想定される。

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より 180 日

News20250217

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したのですが、その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。